

参院比例候補

駆ける

「昨年の総選挙で自民議員160人あまりが、TPP（環太平洋連携協定）参加反対を公約して当選しました。公約どおりつらぬかせなければなりません。幅広い皆さんと協力共同をさらに広げ、何としてもTPP参加をストップさせます」

各地で懇談も

日本共産党農林・漁民局長の紙智子参院議員は、民主党政権がTPP交渉参加へ動き出した2010年以降、TPP問題を議題にした全国各地のシンポジウムや反対集会など、全国を駆けまわっています。TPPが農業だけでなく経済、地域社会を破壊するとの論陣を張ってきました。各地でJA、漁協、森林組合を

北海道・東北・北関東 紙 智子 さん(58) 現

はじめ各種団体と懇談を重ねてきました。

1月27日には、北海道洞爺湖町でJAとうや湖の石川修一組合長、いぶり噴火湾漁協の福島浩二副組合長と懇談。石川氏は「自民党にTPP参加の動きが出ている。共産党は軸がぶれないところが素晴らしい。国民の食料を守る点

で支援してほしい」と語りました。

1月27日には、北海道洞爺湖町でJAとうや湖の石川修一組合長、いぶり噴火湾漁協の福島浩二副組合長と懇談。「TPPに対する考え方は同じ」「断固阻止でたたかう」と意気投合しました。昨年10月6日、埼玉県加須市でのシンポジウムの際には、日程の合間を縫

い農家を訪ね、猛暑によるコメの高温障害を調査しました。

オバマ米大統領との首脳会談を控える安倍内閣とは、参院農水委員会の閉会中審査（1月24日）で、林芳正農水相と初論戦。TPP参加ありきの姿勢をただし、「例外的なき関税撤廃が前提ならTPPに反対」と釈明させました。

国政に届けて

東日本大震災と東電福島第1原発事故では、直後から現地に繰り返し入り、被災者の声を国政に届けてきました。

【活動地域】北海道、岩手、秋田、山形、福島、茨城、群馬、青森、宮城、山形、福島、茨城、群馬、栃木、10県。



1955年札幌市生まれ。北海道女子短期大卒。民青同盟中央委員会副委員長など。2001年初当選、2期目。党常任幹部会委員、党農林・漁民局長。参院農林水産委員会に所属。

ぶれないところ”に共感

被災した漁業施設の早期復旧や、食品の放射性物質の検査強化、汚染された稲わらの処分など、政府に対策を要求。支援対象や期限の拡大を訴えてきました。

宮城県の大川、山元両町で津波を受けた特産のイチゴ復活へ力を入れました。大川町のイチゴ農家・佐藤輝男さん(72)は、今季の出荷は震災前の約8割に回復する見込みです。「紙さんの国会質問が、イチゴの復活を早めた。巨理、山元全体を見れば復旧はまだこれから。農家にとって震災以外にもTPPや高齢化などいろいろあります。これからも紙さんに頑張ってもらいたい」と期待します。

紙議員は「震災復興は解決にはほど遠い状況です。被災地支援は最優先の課題。生活再建や、子どもたちを放射能被害から救おうという運動と力を合わせ、支援を前進させる決意です」と力を込めます。

2月16日付赤旗から